



ともかき

社報「ともかき」第18号
 【発行】妻垣神社社務所
 【発行日】平成30年4月29日
<http://www.tumagakijinjya.com>
 Tel. 0978-44-2519

御社殿創建千二百五十年最終記念事業 神社専用駐車場竣工式斎行

← 奥田組による整地作業



三年前の御社殿創建千二百五十年祭以降、遠近より多くの方にご参拝戴いておりますが、残念なことに神社には駐車場はなく、車は神社前の道路の脇に停めるしかありません。普通車ならそれでもよいのですが、バスなどの大型車は入口が狭いため、ご迷惑をおかけしている次第です。

このような神社の実情を鑑み、元当社宮司家であった矢野敏彦氏より隣接する土地を神社に寄贈したいとの申し出がありました。土地の一部は横の参宮線道路の拡幅工事として宇佐市に無償提供。車が一台通るのがやっとの狭さでしたが、七メートル幅の道路として生まれ変わり、車の往来が容易になりました。

そして、残りの土地については駐車場に整備して、活用する予定でしたが、道路と寄贈地には一メートルの高低差があるため、土砂を入れ整地する必要があります。しかしながら整地工事には多額の費用を要するため、工事は難航。土地の提供より既に四年が経過していました。

そのような中、年が明けた

一月十五日、駐車場がなかなか進まないことを矢野総代長より相談を受けた町内在住の荒金見治氏より宇佐市の(株)奥田組会長奥田守人氏を紹介していただき、その日のうちに現地を視察。信仰心の篤い奥田会長は神社の歴史・活動に大変感銘を受け、工事に関しては全て自分が奉納したいとの申し出を戴きました。

早速、翌日よりのべ三十台以上の大型トラックが土砂を搬入。瞬く間の内に整地は進み、最後に整地した土の上に「鉢さいバラス」が敷かれま



三月十一日には竣工式を斎行し、土地を祓い清め、駐車する参拝者の交通安全を祈願致しました。引き続きの報告会では、土地奉納の矢野氏、施工奉納の奥田氏に対して、

鉦さいとは製鉄工程で除去される鋳物砂などを指し、道路などの素材である路盤材等として使用され、その強度はコンクリートやアスファルトと同等のものだそうです。

駐車場がなかなか完成しなかったことで皆様にはご迷惑をおかけしましたが、奥田会長より次のようなお話を伺いましたのでご紹介します。

「そもそも神様の敷地に新たに入れる土は、人が踏み入れていない清浄な土を入れることが大事です。街中にある残土やヘドロなど人の手が入った穢れた土を入れると神様の御力が無くなってしまう恐れがあります。」

今回入れた土は同市内の山より、地下数メートルの人の手が入っていない清らかな土を持ってきました。」

→ 駐車場看板の除幕



このようなお話を伺い、神様は我々には何も申しませんが、適した土が出るまで待つておられたのではないかと。そして奥田会長を通じて、そのことを我々にお示し下さったのではないかと思えます。今回のことを通じて益々妻垣神社のご神威の素晴らしさを感じた次第です。



→ 矢野氏へ感謝状の進呈



→ 奥田組へ感謝状の進呈

NHK大分「いざよいOITA」取材



何故「アジム」なぜ「安心院」

この四月よりNHKの夕方のニュース番組として、新番組「いざよいOITA」が放送中です。

その番組内において「大分県民の今さら聞けない素朴な疑問を解決する大分県のこと」と題したコーナーが始まり、第一回目放送として「安心院はなぜアジムというのか？」を調査するため、大分県地元アイドル「チャイモ」の二人が当社を訪れ、欄干より説明を受けました。番組の調査によると六割の人が「安心院」を「あじむ」と読めなかつたそうです。この模様は四月十七日に放送されました。



に転化したものとされます。その痕跡として彼らは自分たちの神を祀る風習があり、当社(比咩大神(玉依姫))、隣接する龍王の海神社(豊玉姫、豊玉彦)が今に残っています。

そして「安心院」の表記については、平安期の「承和縁起」に「安心」と書いて「アチム」と記されています。また当社に伝わる話に次のようなものがあります。安心院は宇佐の八幡神が修行中に比咩大神が住まうこの地へ立ち寄り、利生を語り合い、「安樂の御心」を得たこと由来すると云うものです。

要するに神様同士が妻垣神社において、この世を生きる我々をどのように導き、救えよいかを協議なされ、無事解決され、お互いご安心なされたという事です。

このことより「安樂の御心(安心)」と、場所を表す「院」の字があてられ「安心院」と表記されるようになったと伝わります。また「院」については古代、国の米貯蔵庫である「倉院」に由来するとも言われます。

行幸会の道 ウォーク



昨年、平成二十九年は酉年でした。かつて宇佐神宮の二大特殊事であった「行幸会」は、卯年、酉年の六年毎に御神体である「薦枕」を新調し、宇佐地域に点在する八ヶ社を巡る神事です。この神事で関連神社を巡ると約一〇〇キロの行程となり、その道は「行幸会道」として今に伝わります。



→考案された山芋すっぽん粥

記述があり、別府溝部学園の学生が考案した安心院特産のすっぽんと山芋を使った「すっぽん粥」が参加者たちにふるまわれました。

二日～五日の四日間に渡って、ウォークが実施されました。当日は各社に由来する食物を使ったおもてなし料理も提供されました。当社では元和の行幸会文書に「山芋三本」を手に配したとの

日本神話のゆかりある地を訪ねて

古事記学会、参拝研修

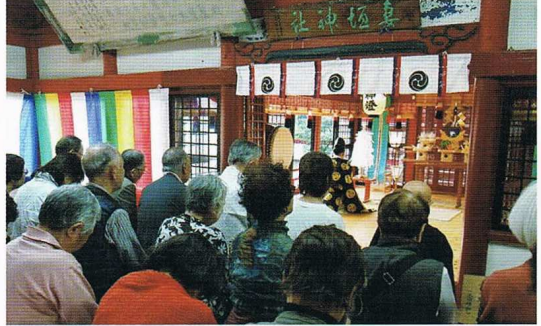


昨年十一月、北九州市の松本清張記念館友の会が当社を参拝下さいました。友の会は全国に約四〇〇名を超す会員で構成されており、文豪松本清張の作品を通じて、知識や理解を深めるために結成された団体です。



→説明を聞く友の会会員

昨年の十月二十七日、関東より古事記学会理事菅野雅雄先生に引率され、会員二十名が当



←本殿にて正式参拝

社を参拝されました。貴会は毎年古事記の神話に所縁のある地域に赴き、研修及び親睦を深めているとのこと。当社にも平成二十二年に一度、参拝戴いており、再び会員皆様のご健康な姿を拝見し、大変うれしく感じました。本殿にて正式参拝後、遺族会館に場所を移して、本研修目的である神武東征ゆかりの「足一騰宮」の比定地三カ所（宇佐神宮境内騰限説、和尚山拝田説、妻垣神社本宮説）について欄宜より説明させていただきました。



松本清張記念館

「友の会」が研修おこなう

夏越大祓式の御案内

「水無月の夏越の祓する人は
千歳の命のぶというなり」

半年の罪穢れを祓い清める夏越大祓式。
今年も六月二十四日午後一時より斎行の予定です。
多くの方のご参拝をお待ちしています。
当日の流れは次の通りです。

- 一、人形(ひと)がた・人の形に切った白紙(に名前を書き、半年の罪穢れを移す。
- 一、神職が大祓詞を奏上する。拝殿に昇殿し参列。
- 一、祓具(大麻・切麻)を用いて、罪穢れを祓う。
- 一、身体健全・無病息災を祈つて玉串による拝礼。

◎当日、ご参拝が叶わない方のために

- 六月一日より社頭にて次のものを用意しております。
- ・人形(ひと)がた。「おほらい箱」を設けてます。穢れを移した人形をお入れ下さい。
- ・夏越茅の輪御守(一体三〇〇円)の授与

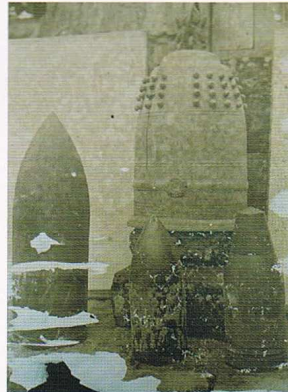


↑ 祓いをうける総代を始め参拝者たち

撮影時よりも美しく

神社所蔵の古写真を修復

以前、遺族会館内に掲示してある安心院校区の戦没者遺影写真は色あせ、破損しているものなどあり、後世に残すために最新のデジタル技術を駆使して、当時の状態にまで復元したことは記憶にあるかと思えます。



→修復前

←修復後

当社にはこれ以外に昭和初期に撮影した写真が数点あり、当時を物語る貴重な資料として保存管理しております。しかし年月が経過し、保存状態も悪かったため、毎年数枚ずつではあります。修復を行うことと致しました。今回は昭和十七年に供出した釣鐘・砲弾と真鍮の馬像の写真です。状態は悪かったですが、見事カラー写真としてよみがえりました。

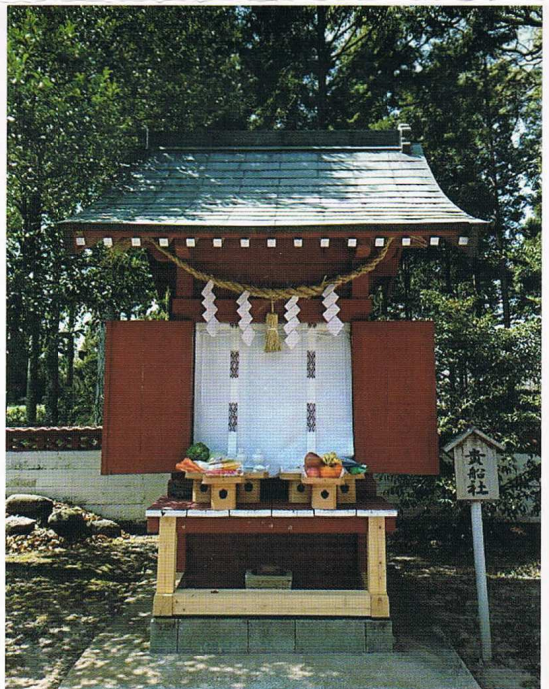


→地元、衛藤忠蔵議員奉納の真鍮馬像



→修復後 供出した釣鐘・砲弾

撰社貴船社修繕奉納



(施工奉納 池永徳男)

貴船社御祭神
クラオカミノカミ
タカオカミノカミ
クラミズハノカミ

山上、谷間にいる龍神と云われ、雨や水を司る神々とされる。



→腐食した材木

当社二十社近くある撰末社は石祠のものばかりですが、唯一木造の御社として造られているのが貴船社です。現御社は平成四年九月に改築したばかりですが木造のため、縁台の脚部分が雨水と白蟻による腐食が進み、破損する事態となりました。特に白蟻は他の部位へ侵蝕する恐れもありましたので、直ちにその箇所を部分切除し、新しい材木と取り換えました。また併せて殿内の御神体の衣替えをおこない、新たに御幌を取り付けました。